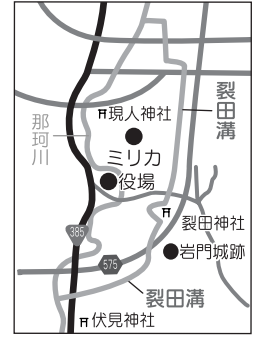


ながわ

那珂川町郷土史研究会



裂田溝40 今光地区周辺

裂田溝は安徳北小学校を過ぎ、「いちよう通り」の地下を通り今光地区へ流れます。雨水幹線として整備された水路は、30m先で西へ直角に曲ります。水路に架かる橋171〜76を過ぎると、最終地点である「日佐水路」へ流れ込みます。ここには鉄鋼製の放水門があり、上部に開閉式の巻き上げが2機設置されています。ここは水路の三差路に当たり、南側は「日佐江井堰」を起点とした日佐水路と合流して北東へ向かい、梶原川の「二ノ橋」の左岸に放流されています。

日常の水路の管理は地元で行なわれていますが、水利権は昔から南区の警弥郷・弥永地区の水利組合が持っています。水利権を持つ組合の

方々は「私共も年々耕作地面積が少なくなり、現在では灌漑用水は取水していませんが、昔からの水利権だけは絶対に手放すことはできません。そのため、毎年田植前に沿線の清掃にきています。先人の苦勞がしみ込んだ大事な水路です。」と作業の手を止めて話しておられました。今光地区も土地区画整理事業後は、水田の面積が狭まり、宅地化が急速に進んでいます。昔の裂田水路を知る人も少なくなりました。地元の人たちから聞いた話を統合すると、裂田水路は現在のいちよう通りを横切って、今光5丁目あたりを斜めに流れ、青葉保育園の北側を通り、最後は那珂川の右岸へ落ちる水路だったそうです。かつてこの辺りには竹が生い茂り、河川敷沿いには「古川」と呼ばれた小川がありました。ダムが完成するまでは、那珂川が度々氾濫し被害が大きかったので、那珂川で増水した水を「古川」に流して水量調節をしていたそうです。「古川」は真つ直ぐ今光の北の端まで続き、那珂川へと繋がっていましたが、区画整理後に役割を終えて無くなりました。

この辺りを「水洗い」と言い「安水神」が祀られていましたが、現在は今光公園の北西側に移されています。水害といえば、今光の春日神社の御神体が、弘化初年(1844年)ごろの大水害で東郷村(現在の南区弥永)

まで流されました。これを拾われた同村の『藤太平衛』氏が、弘化4年(1847年)2月に現在地の弥永に社殿を建てて奉祀されたのが、弥永の春日神社の始まりです。それ以来、今光の春日神社には御神体がありません。今光の春日神社は、明治16年(1883年)に藁葺き屋根の遙拝所(拜殿)を建て、昭和33年(1958年)12月17日には西側に春日神社を分社、由来書と鹿の角がつかわされました。昭和46年に遙拝所を解体し社殿を建て、平成4年に再び新築されたものです。尚、昭和33年の分社当時は、例祭日に必ず弥永の春日神社に向かって遙拝式が行われていたそうです。また、7間(13m)の通し桁に掲げられた「遙拝所」の額の文字は、太宰府出身の南画家「吉嗣拜山」の揮毫によるものです。平成4年の社殿新築とともに移された鳥居には「天保三年(1832年)壬辰歳五月今光氏子中」の文字が彫られています。

には名譽町民第一号の称号が贈られています。このほか、今光区には2つの天神社があります。1社は金丸にあり、御祭神は五穀豊穡を司る「埴安神」が祀られています。そばに「猿田彦命」と那珂川八十八ヶ所80番札所「千手観音」があります。もう1社は松本にあり、同じく埴安神を祀り「十六三郎天神」と言います。石祠に享和元年(1801年)十一月の刻字が見えます。二ノ橋の袂には天保十一年(1840年)庚子三月吉祥日と刻印された「猿田彦大神」があり、表方には明治五年壬申春と刻印の「猿田彦大神」があります。

「裂田溝」の全長約5.5kmを地域の情報とともに、40回に分けて紹介しました。次号からは、よりよい散策を楽しんでいただけるよう、地区別一覧表を紹介いたします。

「裂田溝」の全長約5.5kmを地域の情報とともに、40回に分けて紹介しました。次号からは、よりよい散策を楽しんでいただけるよう、地区別一覧表を紹介いたします。

「裂田溝」の全長約5.5kmを地域の情報とともに、40回に分けて紹介しました。次号からは、よりよい散策を楽しんでいただけるよう、地区別一覧表を紹介いたします。

「裂田溝」の全長約5.5kmを地域の情報とともに、40回に分けて紹介しました。次号からは、よりよい散策を楽しんでいただけるよう、地区別一覧表を紹介いたします。

- コースメモ**
- 145. 橋-71
 - 146. 橋-72
 - 147. 橋-73
 - 148. 橋-74
 - 149. 橋-75
 - 150. 橋-76
 - 151. 排水口 (裂田溝終点)

次号へ 地区別一覧表

史跡メモ

- 旧裂田溝の水路跡
- 日佐江井堰
- 日佐水路 (日佐江井堰〜梶原川への水路)
- 古川跡 (旧水路) (那珂川から放流していた旧水路)
- 金丸天神
- 猿田彦命 (金丸天神境内)
- 千手観音 (那珂川八十八ヶ所80番札所)
- 猿田彦大神 (表方) 明治五年 壬申春と刻印
- 春日神社 (鹿の角) 「遙拝所」の額 吉嗣拜山書
- 猿田彦大神 (二ノ橋袂) 天保十一庚子 三月吉祥日と刻印
- 安徳公園 (町づくりの碑)
- 宗石古墳群 (貝得寺古墳)
- 松口月城生誕地
- 安水神
- 十六三郎天神 享和元年十一月と刻印



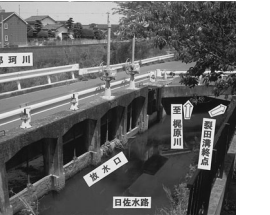
安徳公園 昭和48年から始まった安徳土地区画整理事業の竣工を記念して建てられたモニュメントです。



春日神社 昭和33年に南区弥永の春日神社から分社。現在の神社は平成4年12月に新築された。



十六三郎天神 五穀豊穡を司る埴安神が祀られています。例祭は12月の午の日に行われます。



日佐水路の水門 日佐江井堰からの流れと、雨水幹線(旧裂田溝)からの流れが合流して、余水はこの水門より那珂川へ放流されています。



千手観音 金丸の天神社の境内に、高さ103cmの猿田彦命があります。そばに観音堂があり、那珂川八十八ヶ所80番札所「千手観音」が祀られています。



猿田彦大神 (表方) 天保十一庚子 三月吉祥日と刻印



宗石古墳群 (貝得寺古墳)

